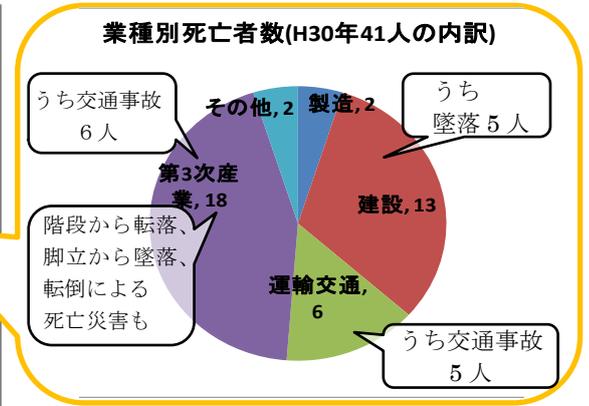
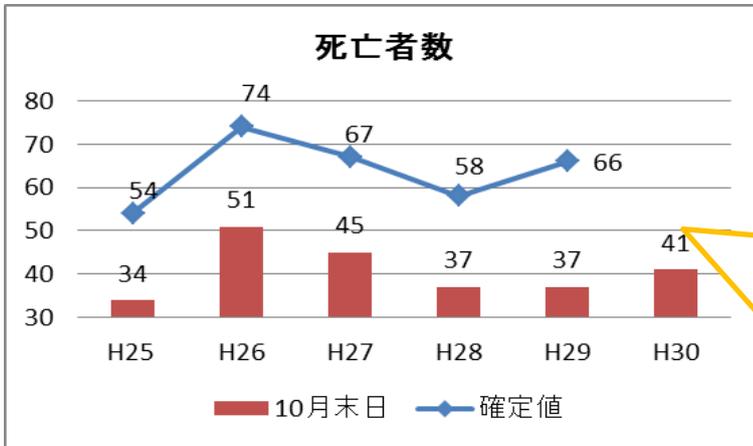


参考資料：平成30年の労働災害発生状況（10月末時点）

1. 死亡者数

- ・対前年同期比4人増加。製造業で2人、運輸交通業で3人、第三次産業で7人増加。
- ・墜落・転落で13人、交通事故で11人死亡。



2. 死傷者数

- ・対前年同期比724人増加。
- ・転倒災害が多発。(冬季における降雪・通路等の凍結による転倒災害の増加も懸念)
- ・製造業のはさまれ・巻き込まれ災害、運輸交通業の交通事故、飲食店の切れ・こすれ災害も多発

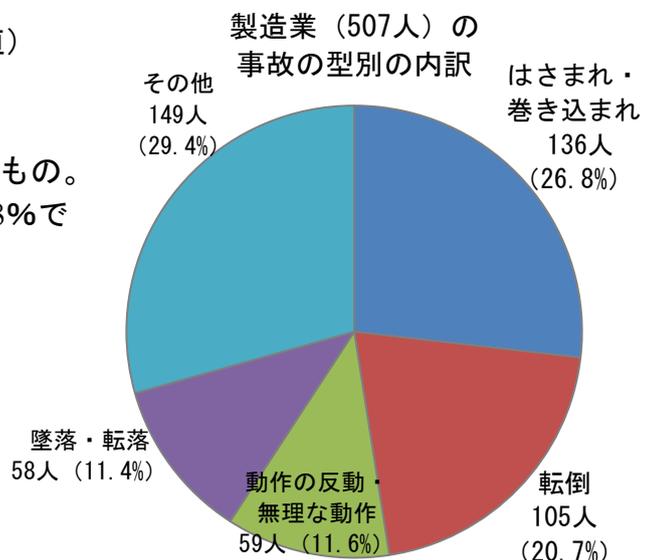


・前年比724人増  
 ・年間1万人を超えた平成20年の10月末時点と比較しても162人増

3. 業種別の発生状況（平成30年10月末時点速報値）

(1) 製造業

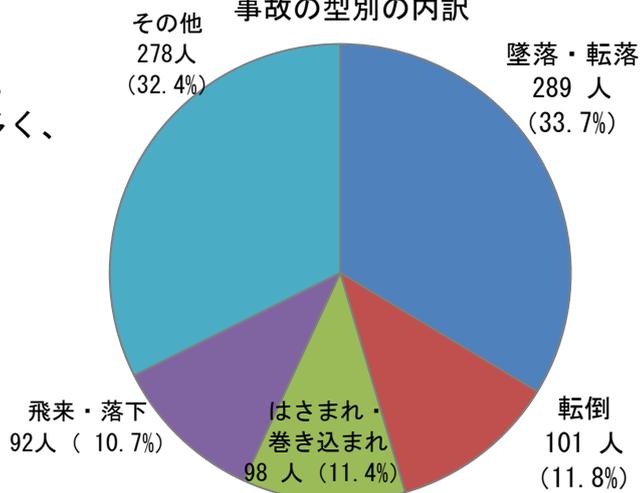
- ・死傷者数507人（対前年同期比17.9%増加）。
- ・死亡者2人。溶接作業中の感電と、熱中症によるもの。
- ・死傷者では、はさまれ・巻き込まれの割合が26.8%で最も多い。転倒災害も増加。
- ・安全装置を無効にしたり、機械を停止せずに清掃を行おうとして手指を挟まれた災害、軍手を着用してボール盤を使用し、手を巻き込まれた災害などが発生。



## (2) 建設業

- ・死傷者数 858 人（対前年同期比 1.9%減少）。
- ・死亡者 13 人のうち 5 人は墜落・転落によるもの。
- ・死傷者では、墜落・転落の割合が 33.7%で最も多く、前年と比較しても増加。いわゆる安全帯を使用すべき箇所では安全帯を使用していないことによる災害も発生。

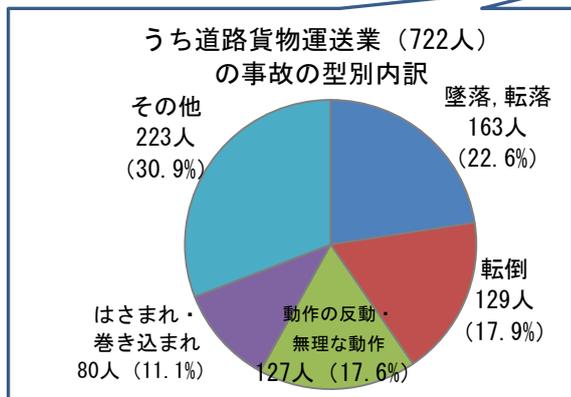
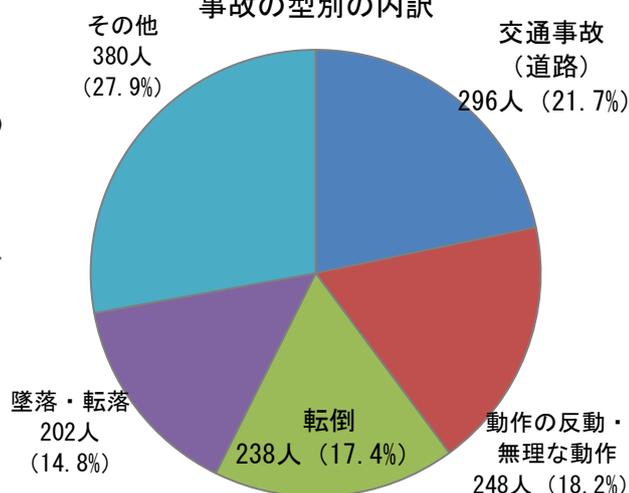
建設業（858人）の事故の型別の内訳



## (3) 運輸交通業

- ・死傷者数 1,364 人（対前年同期比 14.8%増加）。うち 722 人が道路貨物運送業。
- ・死亡者 6 人のうち 5 人は交通事故によるもの。
- ・道路貨物運送業では、トラックの荷台等から墜落する災害が多発し、死亡災害も発生。配送中などの転倒災害も増加。
- ・道路貨物運送業以外では、ハイヤー・タクシー業で交通事故が増加。

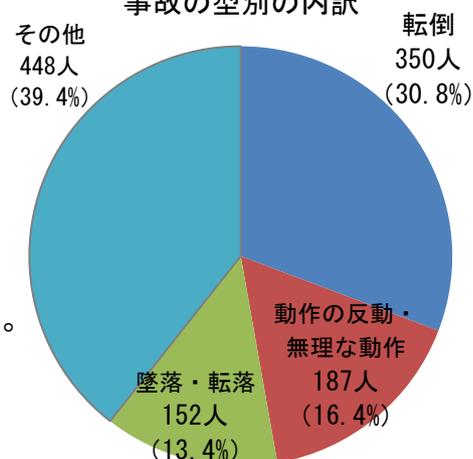
運輸交通業（1,364人）の事故の型別の内訳



## (4) 卸・小売業

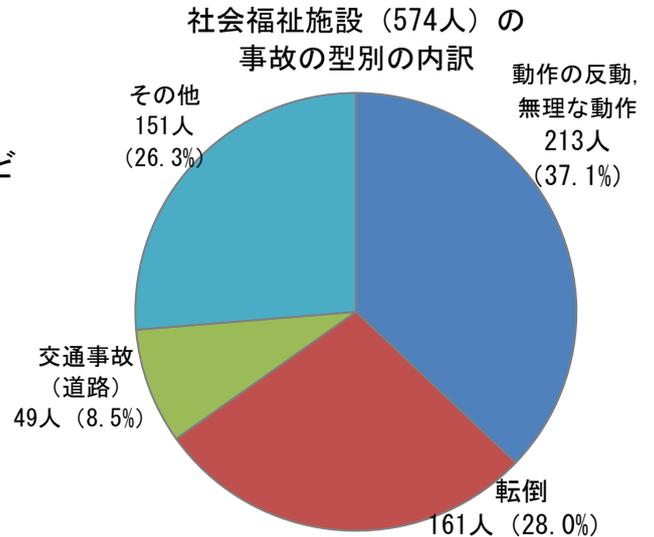
- ・死傷者数 1,137 人（対前年同期比 15.2%増加）。
- ・死亡者 3 人のうち 2 人は新聞販売業で、バイクの交通事故によるもの。
- ・1月の降雪の影響で転倒災害が増加したほか、カートや台車等に激突されたり、足の上に車輪等が乗ってしまうなどはさまれ・巻き込まれ災害が増加。
- ・階段でつまづいたり、足を滑らせて転落する災害も発生。

卸・小売業（1,137人）の事故の型別の内訳



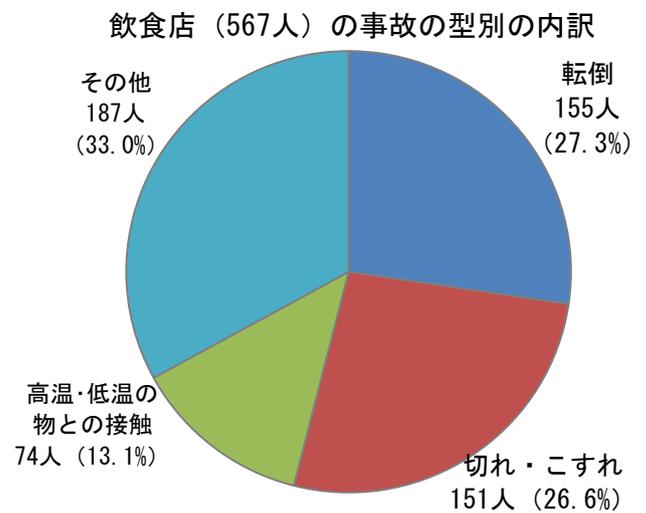
### (5) 社会福祉施設

- ・死傷者数 574 人（対前年同期比 16.9%増加）。
- ・死亡者 1 人。坂道での転倒によるもの。
- ・介護作業時等に腰痛になったり足を捻挫するなど動作の反動、無理な動作による災害が多発。
- ・1月の降雪の影響で転倒災害や交通事故が増加したほか、階段から転落する災害が増加。



### (6) 飲食店

- ・死傷者数 567 人（対前年同期比 18.6%増加）。
- ・死亡者 1 人。階段からの転落によるもの。
- ・包丁や割れた食器等による切れ・こすれによる災害が多発。転倒災害も増加。



### (7) ビルメンテナンス業

- ・死傷者数 422 人（対前年同期比 15.6%増加）。
- ・死亡者 3 人。いずれも墜落・転落によるもの。
- ・1月の降雪の影響で転倒災害が特に増加。段差につまづき足を捻るなどの動作の反動・無理な動作も多発。

